

第1回懇談会のテーマ及び主要論点について

<テーマ>

「生物多様性、人と自然との共生をどう考えていくか」

<主要論点>

1. COP10 から考えるこれからの生物多様性

COP10では愛知目標やABS名古屋議定書の採択などの大きな成果を得ることができた。その一方で、依然として生物多様性の損失は深刻な状況が続き、対策が遅れると不可逆的な変化が起こることが懸念されている。

- 生物多様性を取り巻く現状をどう評価すべきか。その際、特に注意すべき点、見逃してはならない点は何か？
- COP10での議論や結果を踏まえ、今後日本はどのような点に留意して施策を展開していくべきか？

2. 「生物多様性の保全と持続可能な利用」の理念とその浸透

近年、生物多様性に関する問題の根本的な解決のためには生物多様性を主流化していくことが課題として認識されてきている。

- 生物多様性が個人の実感として問題になっていないのはなぜか？
- 「生物多様性の保全と持続可能な利用」という理念が社会に浸透していくためにはどうすればよいか？

3. 人と自然との共生を進めていくに当たり、東日本大震災が意味するもの

日本では昔から自然災害が繰り返され、その度に立ち直ってきた。日本人の自然観や共生の考え方はそのような歴史も含めて形成されてきたものと考えられる。

- 今回の東日本大震災を機に何を学び、教訓としていくことが必要か？
- 人と自然との共生を考えていく上で重要な視点は何か。生物多様性という切り口から日本が発信していくべきことは何か？